

令和3年5月25日

東京都知事

小池百合子様

中央区長 山本泰人

中央区議会議長 押田まり子

新型コロナウイルスワクチン接種にかかる要望について

日頃より、中央区政の推進にご理解とご協力をいただき厚く御礼申し上げます。

高齢者向けの新型コロナウイルス感染症にかかる予防接種につきましては、6月7日の週及び6月14日の週（第7クール）のワクチンの配分数が示され、都の65歳以上の方が2回接種可能なワクチン量が確保されました。

本区においては、区内医療関係団体等にご協力をいただき、5月2日から集団接種を開始し、ワクチンの供給量に応じた年齢区分の設定を行うことにより円滑に進んでおります。また、5月24日からは区内医療機関での個別接種を開始するなど接種体制の充実を図り、7月中旬には65歳以上で希望する方の接種が完了するよう取り組んでおります。

しかしながら、ワクチン接種は緒についたところであり、区といたしましては今後12万人の区民の方々が可能な限り早い時期に安心して接種できるよう、安定的なワクチン接種に努めていく必要があります。

こうしたことから、ワクチン接種の実施主体として、今般、喫緊に整理・解決していただきたい下記の事項につきまして、貴職宛て要望いたします。

ワクチン接種が順調に進み集団免疫が形成され、一刻も早く人々が平常の日常生活や活発な社会経済活動を送ることができる「活力ある東京」としていかなければなりません。是非とも意を汲んだご対応方よろしくお願いいたします。

記

- 1 ワクチン接種体制を医療関係団体等との協力のもと、安定的に維持していくためには、長期的な供給計画が必要不可欠です。

そのため、ワクチンの配分について、国に対し全体の供給計画を早期に示すよう働きかけるとともに、その計画に基づき高齢者のワクチン接種で用いた人口比率のような都としての配分の考え方を示し、事前に調整すること。

- 2 本区では、接種可能な医療機関が多く、また協力を得られる関係性にあることから、接種希望者の利便性やかかりつけ医との関係性を考慮し、個別接種を中心にワクチン接種を進めていきたいと考えております。

そのため、各医療機関が必要とするワクチンを直接配送できる体制を早期に整えるよう国に対し働きかけること。

- 3 5月21日にモデルナ製及びアストラゼネカ製のワクチンが承認されましたが、モデルナ製は18歳以上で使用するというので、現在のファイザー製とは取り扱いが異なります。また、アストラゼネカ製は、当面、公的な接種には使わず、推奨する年齢などを慎重に検討するとなっております。今後、区民は自らの判断で接種するワクチンを選択しなければなりません。

そのため、区民がどのワクチンを接種するか、その特性を理解し選択できるよう、わかりやすい周知に努めること。

- 4 今回、国が設置した「自衛隊東京大規模接種センター」は、本区で独自の予約・接種体制を整備し円滑に接種を進める中で、突然、予約時期や方法が報道先行で示され、区民に大きな混乱をきたしました。また5月21日には、東京都が本区にある築地市場跡地を活用し集団接種を行うという報道がなされ区に対し多くの問い合わせがありました。

今後、国や都において、自治体を実施主体とする接種以外の体制整備を行う場合には、事前に周知するとともに、調整を行うこと。

以上